

New

乳業連合

〈全国乳業協同組合連合会〉

2026年7月1日発行

NO.126



■「第37回通常総会」開催概要	3
■長谷川 敏会長 主催者挨拶要旨	3
■須永新平牛乳乳製品課長 来賓挨拶要旨(代読)	4
■「懇親会」開催概要	4～5
■乳業連合「2025年度事業報告」内容	6～11
■乳業連合「2026年度事業計画」内容	12～13
■「第205回～209回理事会」内容	14～16
■「研修総懇親会」開催予告	17
■「次世代セミナー」の活動と第5回開催予告案内	17
■「役員名簿」／あとがき	18
■「2026年度ブロック会議日程」一覧	19
■2026～2027年度 会議等開催日程について	19
■奥 付	19
■広告(日本製紙株式会社・紙パック営業本部)	表紙(2)
■広告(岩井機械工業株式会社)	表紙(4)

『第37回通常総会』開催

開催日:2026年5月20日(東京飯田橋・アルカディア市ヶ谷)



(『第37回通常総会』における主催者・来賓・議長の各挨拶と真剣な出席者表情)

全国乳業協同組合連合会は、5月20日午後1時半から東京・千代田区のアルカディア市ヶ谷において『第37回通常総会』を開催した。

議案の審議に入る前に、長谷川 敏会長が挨拶を行い、今年度から始まった「学校給食費の抜本的な負担軽減」や今後の酪農乳業情勢を語り、業界の課題について、事業協の団結を訴えた。

また、農林水産省畜産局牛乳乳製品課白尾課長補佐が、須永牛乳乳製品課長の挨拶を代読し会議に花を添えた。

大分県乳業協同組合理事長の古山信介氏を議長に選任し、下記全ての議案を承認・可決した。

- ◇第1号議案 2025年度事業報告及び決算について
- ◇第2号議案 2026年度事業計画(案)及び収支予算(案)について
- ◇第3号議案 2026年度賦課金・賛助金の額及び徴収方法(案)について
- ◇第4号議案 2026年度借入金残高最高限度額(案)について
- ◇第5号議案 役員の選任について

長谷川 敏会長「挨拶」の概要

- (1)相次ぐ戦争による世界秩序の乱れは、米国とイラン戦の勃発により加速し、人々の不安を増長させている。特に中東の原油・石油製品に依存している我が国への影響は甚大であり、原材料の高騰に伴う価格対策は緊急を要し、市場不安を取り除く新秩序構築が急がれる。
- (2)このような厳しい世界情勢を背景とした中で、酪農乳業界を見渡すと、生乳需給バランスの乱れによる乳製品在庫は積み増しが続いている。また、生乳生産コストの増大に見合った乳価の引上げ要請への乳業企業の対応も待ったなしの中で、いかに生乳生産基盤を守り、安心安全な牛乳を飲み続けていける体制を構築していくかが問われている。
- (3)酪農乳業界は牛乳・乳製品の有する価値向上のための活動を業界あげて取り組みつつ消

費拡大を図って今日に至る。ここ数年間に3回の乳価改定を実施し、現在、新年度の価格改定の詰めをしている中で、生産者が一体となって新たな事業「需給変動対策基金」への取り組みも最終調整中であり、今後の動静と併せて地域乳業のあり方が問われている。

(4)地域乳業において、学乳事業は大切な事業分野であることは申し上げるまでもないこと。学乳事業は70年近い歴史を有し、根付いた制度として維持され、社会的にも児童生徒の健康への貢献インフラとしての役割は大きい。従って、学乳事業を今後も持続可能な事業として堅持していくためには、従来に増して衛生・技術管理に努め、商品の安心安全対策を堅持していくことが絶対条件といえ、会員各位のご理解を頂きたい。最後に、乳業連合会が創立されて37年の歳月と活動実績を育む中で、財政事情は厳しいが「必要とされる組織」として次の新しいステップを歩んで頂きたい。



(総会後に開催された「懇親会」での主催者・来賓挨拶と乾杯・中締め of のさわやか表情)

農林水産省 須永新平牛乳乳製品課長 総会での「挨拶」要旨

挨拶の骨子は、(1)需給変動対策基金への協力継続要請 (2)中東情勢に起因する燃料・資材等の供給不安に関する情報提供要請 (3)食料システム法に基づくコスト指標作成状況についての情報提供で、総会に出席した白尾紘司牛乳乳製品課長補佐が課長挨拶を代読した。

【長谷川 敏前会長に「感謝状」】

懇親会の席上で、吉澤文治郎新会長の手で「感謝状」が長谷川 敏前会長へ贈呈(写真参照)され、会場から万雷の拍手が寄せられ、敬意が表された。同氏は次のとおり挨拶し、新会長をはじめ理事、会員、関係者へ組織活動の将来を託された⇒過分な言葉に感動し、胸が一杯。乳業連合会の理事就任(2002年)から24年間理事職、この中で2008年に副会長、そして2014年に会長と重積を授かり今日まで会員の皆様と一体で活動に励む。歴代会長では2代目の芝田 博さん、3代目の古谷健一さんとは特に永い間に亘る仲間として思い出も深い。そして、今度、吉澤文治郎さんへの重責の引き継ぎは、別な意味で心に染みる想いが強い。皆様、乳業連合をこれまで以上にお支え下さい、よろしくお願い致します!!

新会長のもとで「必要とされる組織活動」の輪をより拡大・強化!!

「懇親会」は恒例の業界関係者の“対面・対話”の集いとして、その出席者表情(掲出・紹介のフォート参照)はすこぶる明るく、語らいの場は盛り上がりを見せた。

主催者挨拶の吉澤文治郎会長は、出席された関係者へ向かって、「厳しい内外情勢の中で地域乳業の組織として何をやれば認めて頂けるのか、を常に考えながら関係省庁・団体とも協調し活動していくことが生き抜いていく道である」と締め括られた。

また、来賓として、(1)農林水産省 白尾紘司牛乳乳製品課長補佐 (2)Jミルク 渡辺裕一郎専務理事の両氏が登壇し、「危機只中の酪農家への支援」、これを支える官民一体化の「協力体制」、その施策を推進していくための「牛乳・乳製品の消費拡大」への“一致団結”への要請、そして、感謝を心から語られた。

「懇親会」は乳業連合会 大野 保副会長の“乾杯音頭”で進行、交流の輪が広がる中での「中締め」(中田俊之副会長)を導き、宴が閉じられた。

◇「第37回通常総会」で“頼れる乳業連合、の更なる結束を呼びかける!!”◇



(「感謝状」が吉澤文治郎新会長から長谷川 敏前会長へ贈呈され、永年の功績に敬意が表された)



(「懇親会」は会員・業界関係者が集い“組織の将来展望を語る、交流の場として盛会を極めた)

I 経済概況

政府によれば、我が国経済は、2025年における米国の関税引上げという逆風に見舞われながらも、内需を中心とした緩やかな回復が続いている。ただし、米国通商政策の動向は、引き続き我が国の緩やかな回復を下振れさせるリスクの一つと考えられる。また、食料品など身近な物の価格の上昇が続いていることにも注意が必要である。消費者物価（総合）は、2022年8月以降前年同月比で3%前後の上昇率が続いており、物価高の継続が消費の回復を抑制する要因ともなっている。今後も2%の物価安定目標を上回る物価上昇率が継続することになれば、これも我が国の緩やかな景気回復を下振れさせるリスクとなろう。物価上昇を上回る賃金・所得の増加を早期に実現し、長引く物価高を乗り越えていくことが、我が国が民需主導の成長型経済へ移行していくための重要な課題であるとしている。

直近の中東情勢緊迫化を受けて、原油の供給をめぐる問題が世界経済のリスクとなっている。我が国の鉱物性燃料、特に原油の輸入は中東への依存度が高く、中東情勢の変化によって原油供給の混乱や価格高騰が生じれば、我が国経済には大きな影響が及ぶ可能性があるともしている。

II 酪農乳業界の動静

乳用牛飼養戸数は農家の高齢化などを背景に右肩下がりで推移しており、2025年の減少率は例年並みとなった。（2025年2月1日現在11,300戸、前年同期比▲5%と前期の減少率9.4%より改善した）また、飼養頭数も昨年よりやや減少した。（同1,293千頭、同▲1.5%）

全国計の生乳生産量は長期に亘り減少基調で推移してきたが、2025年1月～12月は全国で7,373千㍓（▲0.7%）と微減だった。しかし、酪農経営環境悪化を背景とした数次に亘る乳価値上げと今期の飲用乳価の値上げの影響で牛乳等の市場価格も高騰し消費が停滞し、2025年の牛乳生産量3,437千kl（同▲0.8%）、牛乳等向生乳処理量3,820千㍓（同▲0.5%）となった。在庫低減対策など官民あげて取組み在庫が減少したが生乳需給から在庫は増加しつつある。（2024年末定在庫量：脱脂粉乳50.5千㍓、バター22.5千㍓→2025年末推定在庫量：脱脂粉乳71千㍓、バター32.3千㍓）

様々な物価高騰に伴う家計負担の増嵩は食料品を含む消費全般に影を落としているが、牛乳乳製品の需要も同様に低調に推移してきている。酪農乳業界において、今後とも牛乳の消費拡大に向けた対応が必要となっている。

III 主要な事業内容、事業の経過及びその成果

本会を取り巻く社会情勢の変化並びに本会が果たせる機能や会員・組合員ニーズの変容を認識し、関係機関・団体とも連携しつつ円滑かつ適切な事業遂行と合理的・効率的な業務執行を行うこととし取り組みを推進した。

1 学校給食用牛乳等供給推進事業

本事業の推進に当たっては、「牛乳消費の増進」「酪農生産基盤の強化」といった酪農乳業の喫緊の課題への対応において学乳制度が重要な柱であることを念頭に、「制度の維持」「事業の改善」「予算の確保」を主要な取り組み事項として、関連諸団体とも連携し事業を推進した。

1)「事業の効率的な推進」「令和8年度（2026年度）予算の確保」の要請

学乳制度が「牛乳消費の増進」「酪農生産基盤の強化」といった酪農乳業界の重要な柱であることを念頭に、Jミルク「学乳問題特別委員会」に主体的に参画し学乳事業に対する酪農乳業の共通認識の醸成を図り、農林水産大臣に対する令和8年度予算の策定や政策推進に関する要請文案への意見反映を行うとともに、6月12日、Jミルクによる農水省に対する要請に同行した。

令和8年度予算に対する要請内容は以下の通り。

【Jミルクによる要請事項】

1 学校給食用牛乳供給制度を堅持するための地方行政への適切な支援・助言

地方自治体の関係部局が、制度の意義を理解し運営に対し適切に関与し、行政や関係者が配送コスト低減や供給本数の確保など喫緊の課題解決の取り組みを推進する必要。

2 学校給食用牛乳等供給推進事業の予算及び運用

2026年度学乳供給推進事業の必要な予算額の確保と供給条件不利地域（校）に対する安定需要確保に係る助成の継続。

3 学校給食無償化への移行に伴う、学校給食用牛乳の安定供給

安定供給を維持するため、学校給食用牛乳供給対策要綱等による、国による制度の下支えが必要。

【要請時の農水省側発言要旨】

- ア) 学乳制度の堅持は各地域への働きかけが必要であると考えている。都道府県の畜産関係部署などに、学校給食用牛乳供給推進会議等を通じて、地域の栄養士会やPTAなどに制度の必要性を理解いただく取り組みのほか、配送コストの低減に関する事例等も紹介していきたい。
- イ) 学校給食の無償化に関しては、学乳供給推進事業も関連するので、どのような方向性になるのか、文部科学省と連携しながら注視していきたい。地域によって支援に濃淡がでないよう、目配せしていきたい。
- ウ) 学校給食における風味変化について話題になるが、季節やえさで風味が変わることを

学校の先生に理解いただく必要がある。一方、供給側として、万が一、品質事故が発生してしまった場合は、誠実な対応を行い、消費者をはじめサプライチェーン全体で対応していくことが最善策であるので、業界内でのコミュニケーションをとって信頼を築いていってほしい。

2) 「2026 年度（令和 8 年度）予算」の確保について

2026 年度(令和 8 年度)予算概算要求における学乳供給推進事業の予算は、2025 年度(令和 7 年度) 予算額と同額の 550 百万円が決定された。

【令和 8 年度学乳供給推進事業の内容】

1. 【学乳供給円滑化推進】

実施計画の策定、関係者の理解醸成活動、配送効率化に向けた取組み（隔日配送等）等の実施を支援。

2. 【学乳安定需要確保対策】

遠隔地・離島など供給条件が不利な地域（地域振興 8 法に基づく指定地域）を対象に輸送費等の掛り増し経費の一部を支援。

3. 【学乳新規利用推進】

学校給食への新規の牛乳供給に奨励金を交付（初年度限り）。

3) 適正な供給価格の形成

適正な学乳供給価格の形成に向け「令和 8 年度学乳供給価格の適正化等に関する要請について（お願い）」を会員に発信（2025 年 10 月 15 日）し、各道県に対する同様の要請方を依頼し、必要に応じ各道県事業協等と情報交換を行った。

2026 年度の学乳供給価格は、乳価の値上げ、資材費・エネルギー等のコスト増を背景として値上げの趨勢となり、供給価格の改定幅は最低・最高を除く単純平均で+ 3.11 円/本となった。

2 教育・研修・情報事業

1) 教育・研修

- ①「研修・総懇談会（10 月 23 日）」について、「学乳風味事案対応例及び期限表示設定について」をテーマに関係各者と協議・企画し、実施した。
- ②「21 ミルク未来の会」の活動を支援し、同会「第 25 回通常総会」を 7 月 11 日開催するとともに、研修会を実施した。また「現地研修会」について 10 月 16 日～17 日(株)ホリ乳業新工場を見学した。

2) 情報提供・情報交換事業

- ① E メール等を活用し、「乳業連合だより」を中心に、農水省・厚労省等からの行政

情報並びにJミルク等からの業界情報、その他各種情報について、会員・組合員への提供を行った。

②全国7か所（7～8月、今年度は全地域で対面式）でブロック会議を開催した。

【議題】

(1)乳業連合の事業実施等について

- 2024 年度事業報告・収支決算、2025 年度事業計画・収支予算について
- 学乳予算の確保、学乳供給事業に関する要請について
- 「研修総懇談会」及び「第4回次世代セミナー」について、それぞれ取組みテーマを「学乳風味事案対応例及び期限表示設定について」及び「学乳の風味差異案件対応を中心とした乳業会社のリスクマネジメントについて」として開催予定を案内。
- 2025 年度需給見通しと課題について
- 当日配布資料として、ア．厚労省人口動態統計 2024 年出生数確定による全国学乳対象出生数傾向値の推移 イ．農水省「学校給食用牛乳供給事業概況」令和5年度学乳供給本数から概算供給日数の H30 年度 R4 年度 R5 年度対比 ウ．北海道、東京等における配送合理化資料について説明した。

(2)情報交換、意見・要望について

- 学乳配送体制の見直しについて
 - ✓ 配布された北海道の「学乳配送の持続可能なしくみづくり」パンフを参考に作成し県に出したい。配送合理化で学乳価格を下げて供給日数増につなげたい。
 - ✓ 大手撤退で他県へ学乳供給しているが、前日配送以外は対応出来ないため他県に伝え前日配送となった。地元でも厳しくなっており前日配送を申し入れたが、難しいとの事。切迫感を逐次伝え態度が軟化してきている。
 - ✓ 僻地の配送は隔日配送を実施済。県内事業者全て自社配送で、物流 2024 年問題はないが、ドライバーの高齢化や学校の統廃合により配送ルートの変更など将来に向けた配送体制の見直しは必要である。
 - ✓ 配送の見直しで経費削減になるため、市町村教育委員会に提案したが1本当たりの単価は数十銭に過ぎないが、総額では数十万円コストダウンになる。教育委員会側からは「1本あたりの単価が僅かなので、手間がかかるので面倒なだけだ」と言われ理解を得ることができなかった。
- 学乳供給価格の値上げが学乳供給日数に与える影響について
 - ✓ 多くの地域で、乳価改定による学乳供給価格の値上げにより、給食予算に占める割合が高くなり、他飲料等への差替えが一部発生している中で、更に供給日数が減少することを懸念している。
 - ✓ 農水省は学乳供給目標 195 日という数値を公表しているが、実際は 170 日前後で、

乖離は他飲料等で代替されているもので、契約時の約束が守られていない。学乳の値上がりが供給日数に影響しているのは明らかではないか。

✓ 今後、給食の無償化が実現した場合、硬直した給食予算であれば、供給日数減少が心配。

● **牛乳の風味不良案件について**

東海地区で牛乳の風味不良案件が発生し、この事案に対し、農水省から注意喚起の文書が発信された。これは牛乳乳製品課長名でミルクサプライチェーン各団体に宛てたものだが、かなり強いトーンの文面となっている。農水省からは品質事故は起こるものであるが、起きた時、どの様な対応をするかがポイントで、所轄保健所や行政としっかり連携をとって欲しいとの事である。

● **学乳の風味差異案件について**

今年も風味差異案件が発生しており、再開まで一定の時間を要している。会社の経営は我々自身が守っていく他ない。今年は学乳風味差異案件発生に対応を研修会でのテーマの一つにしている。ひとたび案件が発生した場合、対応の方法、選択肢を一つでも多く持っている対応する姿勢にもゆとりを持てるようになるので、研修に参加していただきたい。

③機関誌「乳業連合 News・No. 124」を7月に「同・No. 125」を1月に発行した。

3) 学乳実施主体供給推進会議研修会講師派遣事業

講師派遣申込2者について研修会対応を行った。

①富山県供給推進会議研修会：2025年8月28日15時～ 対面形式での開催

参加者：7社8名、実施主体・行政等4団体5名、鷺尾講師、事務局1名計15名

②茨城県学乳推進会議研修会：2026年3月4日11時15分～、対面形式

3社3名、実施主体・行政等7者、事務局講師1名計12名

4) 生産技術等助言事業

2025年度第36通常総会で承認された本事業について、助言希望の有った2組合員に対して、助言事業を1者7月・3月、1者8月の計3回実施した。

3 経営体質強化事業

1) 自主衛生管理レベルアップ事業について

2021年度から開始した「自主衛生管理レベルアップ事業」について、日本乳業協会作成の「手引書」を利用した指導により各乳業者のHACCPに沿った衛生管理水準の維持向上に寄与することとし、保健所による立入指導に対する事前準備や指導対応、更に微生物・異物混入及び日付を含む製品表示等の品質トラブル・事案発生未然防止や事案発生時の対応支援等、現場を見ながら様々なサポートを行っている。2025年度は、年間14県

25 業者 45 回を実施した。(前年比 1 業者 3 回増)

2) 高付加価値型地域乳業の形成・展開への取組み

本年度から全国中小企業等団体中央会の「中小企業組合等課題対応支援事業」を活用した「次世代セミナー」を実施することとし、手続きに向けた協議を行い、採択を受けることとなった。

「第 4 回次世代セミナー」は、「学乳風味差異案件対応を中心とした乳業会社のリスクマネジメント」をテーマとして 11 月 13 日～14 日に開催した。

4 酪農乳業問題等に関する要請及び意見表明

海外情勢などや米国との関係から円安が続く影響により、エネルギーを始めとするありとあらゆる消費財の高騰により、消費者はもとより、我々乳業者・酪農生産者も厳しい経済環境が続いている。

1) 4 月・5 月の J ミルク学乳問題特別委員会での意見表明

①学校給食用牛乳の配送について物流の 2024 年問題も有ることや学乳供給価格の改定が供給日数減に繋がらないよう、配送コストの低減が重要な課題であるとした。このため、学校給食用牛乳に関する配送コスト低減等課題解決の調査を行うこととし調査内容についても意見を反映させた。

②三党合意で、所謂学校給食無償化についての進捗情報を収集するとともに、今後の学校給食用牛乳の制度を堅持することとした。

③生乳需給が大幅に緩和しているので、夏休み後の生乳逼迫による関係各者の対応等について削除する案が出されたが、地域的季節的な生乳の逼迫は起こり得るため削除しないこととした。

以上のことにより 2025 年 6 月 12 日付けで「学校給食用牛乳の安定的な供給及び利用の推進に係る要請」文書を J ミルク大貫会長名で発出した。

5 その他

1) 消費拡大・啓発

J ミルクが推進する「牛乳の日・牛乳月間」の諸活動に連携し、各地域のイベント開催等の情報共有を行った。

「牛乳でスマイルプロジェクト」メンバーとして、豊洲におけるキックオフイベント・プロジェクト優良事例発表会等に参加し、飲用需要を少しでも引き上げるべく、参加企業等とともに取り組んで行く。

2) 共同経済・共済事業

製造物責任法（P L 法）対応として団体 P L 保険共済事業を行った結果、その加入者数は 40 者（昨年度 42 者）となった。

I. 基本方針

1. 情勢認識

本会を取り巻く社会情勢は変化しつつあり、また本会が果たせる機能や会員・組合員のニーズも変容しつつあることを認識し、継続事業の円滑かつ適切な遂行と合理的・効率的な業務運営を行う。

海外情勢や関税政策を始めとする世界及び国内の経済情勢などから、牛乳乳製品需給への影響に対し円滑かつ適切に対応できるよう会員組合員への情報提供に努めるとともに、学校給食用牛乳供給事業への影響を招来する事態に対しては、国及び関係機関・団体並びに会員組合員とも連携し迅速かつ適切に取り組む。



（新代表理事会長就任の吉澤文治郎氏）

2. 2026 年度の継続的取り組み事項

酪農乳業を取巻く現状認識と課題を踏まえ、中小乳業者の持続的な成長の礎となる健全な経営の実現を第一義とし、会員・組合員と連携を取りながら事業を推進する。

- ①学校給食用牛乳等供給推進事業に係る制度の維持・拡大
- ②教育・研修事業の推進
- ③経営体質強化事業の推進
- ④H A C C P に沿った衛生管理の定着化への対応
- ⑤酪農乳業問題等に関する要請、意見表明

II. 事業実施方針

1. 学校給食用牛乳等供給推進事業

J ミルク「学乳問題特別委員会」に主体的に参画し、「学乳制度の維持」「2027 年度（令和 9 年度）予算の確保」「事業内容の改善」等、学乳事業に対する酪農乳業の共通認識の醸成、及び一体的な要請活動の推進を行う。

特に、前年度に引き続き、夏場の需給逼迫時における学乳向生乳の優先配乳の必要性についても「学乳問題特別委員会」に諮りたい。

また、適正な学乳供給価格の形成に向け、2026 年度学乳供給価格の見積もり合わせの結果を踏まえ、必要に応じ、各道県事業協等と情報交換を行う。

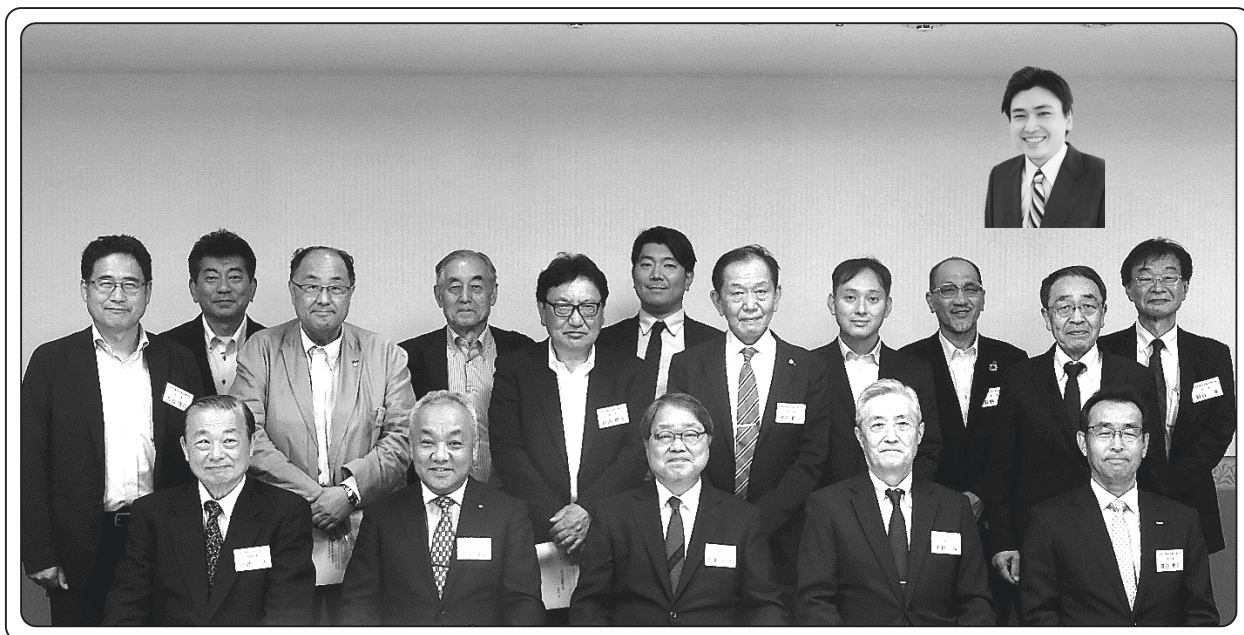
2. 教育・研修事業

酪農乳業を取り巻く情勢・課題の認識共有を進めるため、「研修・総懇談会」「ブロック会議」の開催、「21 ミルク未来の会」の活動支援、その他研修会・講習会の開催について例年と同様に計画する。

また、機関誌「乳業連合 News」により乳業連合の活動を広報するとともに、リニューアルしたホームページやメルマガ「乳業連合だより」を活用した情報提供機能の強化により、行政情報・業界情報などを迅速かつ適切に会員組合員に提供する。

酪農乳業を取り巻く外部環境の変化を踏まえ、乳業連合の会員組合員の企業収益力を高める高付加価値型地域乳業の形成・展開を図るための取組みとして「次世代セミナー」の開催を計画する。

なお、本セミナーは、全国中小企業団体中央会連合会の「連合会（全国組合）等研修事業」



(写真前列＝会長・副会長・専務理事、写真後列〈右上別掲〉＝理事・監事の皆さんをご紹介します)

を活用して次世代セミナーを継続したい。

また、Ｊミルクが推進する「牛乳の日・牛乳月間」及び学校給食（学乳）を通じた食育活動の取り組みに連携・協力する。

3. 経営体質強化事業

学校給食用牛乳供給推進事業については、給食無償化の課題や令和９年度より掛り増し費用を中心とした補助方式から変更の可能性もあるため、農林水産省担当官を交えた「今後の学乳供給事業に関する勉強会」を例年以上に開催する必要性があり、多くの会員・組合員の参加が望まれる。

4. HACCPに沿った衛生管理定着への対応と生産技術等への助言

2021 年度に創設した「自主衛生管理レベルアップ事業」を以って、各乳業者の HACCP に沿った衛生管理について、保健所による検査の事前準備又は検査後の対応として一般衛生管理及び「手引書」を利用した指導による衛生管理の維持向上に寄与している。

また、同年度、学校給食用牛乳推進事業の要綱・要領に追加された点、即ち『推進会議（事業実施主体が年１回以上開催）において、HACCP に沿った研修会を行うことが求められるようになった』点を踏まえ、当連合会では現地からの要請を受け研修会への「講師派遣事業」を展開してきた。

一方、品質の維持向上には、建物・機械設備や要員確保の要素など生産基盤の整備等が重要である。こうしたことを踏まえ、会員が工場の新増設計画策定時に高額な投資は出来るだけ避ける中で、他社・他工場などの知見を備えたアドバイザーから、現地等で助言を受けられることを目的とする「生産技術等助言事業」を実施する。

そして、従来の「自主衛生管理レベルアップ事業」と併せて、相乗的に良質な学校給食用牛乳の安定的な供給に資することとする。

なお、生産技術等助言事業の収入・支出については、教育・研修事業として取り扱う。

5. 酪農乳業問題等に関する要請及び意見表明

需給課題・在庫対策問題や極端な温暖化等の気候変動を含む自然災害等への対応などについて、関係機関・団体と連携・協調しつつ、中小乳業の立場から酪農乳業問題等に関する要請及び意見表明を行う。

「第205～209回理事会」の内容

「第205回理事会」

1. 開催日時 2026年1月15日13時30分
2. 開催場所 KKRホテル東京 11階「白鳥の間」
3. 議事の経過の要領及びその結果

(1)長谷川会長挨拶

- 昨年暮れに静岡の吉田理事が逝去された。葬儀には参列させていただいたが、吉田理事は大変お元気な方で最後にお会いしたのは昨夏東海・北陸のブロック会議の場であった。その際も病を得て大変なはずだが、闘病に前向きな発言をされていたことが印象に残っている。そして昨年10月には丸山元理事が急逝された。昨年6月には数期にわたって副会長を務めていただいた北海道乳業の田島会長も逝去された。1年余りの中で役員を務めていただいた方が相次いで旅立たれたということで、改めて哀悼の意を表したい。有為転変は世の習いというが、人の命は儚いものと痛感した。
- 本日の理事会では、これからの乳業連合会の運営の方向性についての議題を提案させていただく。皆さんの忌憚のない意見を頂戴して、意見集約を図りたい。

(2)議題及び主な質疑

議長からは、本理事会に提出した議題は採否を問うものではなく、議題の内容に対する質疑・意見を確認する場にしたい旨の説明があった。

2026年度が役員改選期にあたることから、役員改選に伴う次期会長をどのように選任していくか、意見交換をおこなった。

「第206回理事会」

1. 開催日時 2025年3月13日14時00分
2. 開催場所 アルカディア市ヶ谷 7階「妙高」
3. 議事の経過の要領及びその結果

(1)長谷川会長挨拶

- 相次ぐ戦争で、世界が秩序から遠ざかっており、この先どのような世界が待っているのか心配だ。160円台に迫る勢いの円安と原油高などもあり、先行きが見えない状況が続いている。そして価格高騰もあり、日本の経済や企業の動向、国民の暮らしがどうなっていくのか、不安が広がっている。まだ表面化はしていないが、こういった社会の流れが酪農乳業界にも影響を与え、色々な課題が出てくるのではないか。
- 生乳需給から乳製品在庫は積み増しが続いており、行政からは関係団体に対して消費拡大に努力せよとの文書も発信されているが、その対策は難しい問題もある。需給変動対策基金に対しては、我々の仲間の皆さんの合意が増えてきている。
- ついては新年度の価格がほぼ出揃ってきている。おしなべて2円台後半の値上げになった。これは物流費の高騰などが反映されたものと思われるが、一部の地域では乳価のアップが考慮されていない。
- 学乳については、新年度の価格も出揃ってきており、前年に比べて3円半ばほどの値上げになるようだが、県によってバラつきが大きいのが今年の特徴だ。乳価の水準や配送状況は地域ごとに異なるので、それを踏まえたものだと考えている。
- 年2月に執行部内で協議した結果、次期会長はこれまで通り会員の中から選出しようという考えにまとまった。次回総会後の互選理事会の席で正式にお示しする。

(2)来賓挨拶（農林水産省牛乳乳製品課・白尾課長補佐）

- J ミルクの脱脂粉乳在庫対策の事業に参加いただき、感謝する。事業への参加を表明しているのは昨年 11 月の時点では生産者側 97%、乳業者側で 85%であった。直近の情報では、乳業者側の参加が 88%まで上昇してきた。「自分は飲用牛乳しか製造していない」という事業者もいるだろうが、加工原料乳を回してくれる人がいるから飲用需要が守られている。猛暑が続いている近年、将来的な都府県生乳の安定供給には不安もあるが、皆さんには対策事業の必要性を理解いただきたい。
- 学校給食無償化については特に問題もなく進んでいるようだ。現時点では国会を通過してはいないが、このままの流れで「いわゆる給食の無償化」は実現すると思われる。

(3)議題及び主な質疑

事務局より提出資料の説明・報告を行い、下記の各議題について質疑応答が行われ、全議案とも可決承認された。

- ① 2025 年度事業の実施状況について
- ② 2025 年度収支決算の見込みについて
- ③ 2026 年度事業の実施方針について
- ④ 2026 年度収支予算の作成方針について

「第 207 回理事会」（書面開催）

1. 開催日時 2026 年 4 月 23 日 11 時 00 分
2. 開催場所 全国乳業協同組合連合会 事務所内
3. 議事の経過の要領及びその結果

各理事に事前配布した下記の各議題について書面議決書の賛否を確認した結果、提出議案は可決承認された。

- ① 第 37 回通常総会の開催（日時・場所）について
- ② 第 37 回通常総会に提出する議案について
- ③ 2025 年度事業報告、及び決算の承認について
- ④ 準会員の加入承認について
- ⑤ MIL-AI 年金基金制度改革に伴う掛金プランの変更について

「第 208 回理事会」

1. 開催日時 2026 年 5 月 20 日 13 時 15 分
2. 開催場所 アルカディア市ヶ谷 7 階「白根」
3. 議事の経過の要領及びその結果

(1)長谷川会長挨拶

- 私は足掛け 12 年にわたって微力ながら会長職をお引き受けさせていただいてきたわけだが、今回で退任させていただく。どれだけお役に立てたのか分からないが、このような場で理事の皆様になからずご支援をいただいたことを御礼申し上げたい。
- 乳業連合としては皆様へ脱粉在庫対策基金の説明と理解醸成に努めた結果、賛同していただいた方が少し増えたと承知している。ただ問題はこの後のことで、現在基金の積み上げが不足していることから、J ミルクでは拋出単価を値上げしたいという意向がある。拋出金が値上げされると大幅に負担が増えるという声があちこちで聞こえる中で、乳業連合として中小乳業者の値上げに対する懸念の声を直にお伝えしている。

「第 205 ～ 209 回 理 事 会」の 内 容

- 現在 WG の会合は休止中でいずれ再開させることと思うが、乳業代表メンバーとして、価格だけではなく生処が負っている需給調整機能を含めた観点で意見を申し述べていきたい。
- これから総会を含めて長丁場の会議となるが、忌憚のない意見をいただき、有意義な会議にしたい。

(2)来賓挨拶（農林水産省牛乳乳製品課・白尾課長補佐）

- J ミルクの拋出金の件については、私も戦略ビジョン委員会に出席しているので経過は承知しているが、現時点で皆さんにお話しすることはできないが、渡辺専務からは中小乳業の意見をしっかりお伝えしていただいている。今後も乳業連合の思いは、これからも渡辺専務に伝え続けていくことは必要と考える。しかし生乳の需給が厳しいのは事実で、現在議論している需給予測は中東不安前のものなので、今後はさらに厳しくなることも考えられる。
- 中東不安については燃料、資材の入手困難の声も聞こえてきており、なにか不都合があれば農水省に申し出ていただくようお願いしている。一例をあげるとある地域で A 重油が調達困難になっているという情報があったので、元売りの情報もいただきながら農水省から経産省に伝え、経産省から元売りに働きかけてもらった。この事例では元売りではなく販売店の方が供給不安で販売量を制限していたもので、大手販売店が通常の供給に戻ると、地域での調達不安は解消した。他の地域でも燃料供給不安の情報があり、経産省と連携して対応した。燃料以外ではポリ容器供給メーカー 1 社が発注を停止したというケースがあり、これも経産省との連携で解決した。皆さんは原材料や燃料の供給に不安を持っておられると思うが、何かあったら農水省に連絡をいただきたい。

(3)議題及び主な質疑

- 議長は、説明に対する質疑・意見の有無を確認後、「第 37 回通常総会に提出する議案について」を議場に諮り、全員異議なく可決承認された。

「第 209 回理事会」

1. 開催日時 2026 年 5 月 20 日 16 時 25 分
2. 開催場所 アルカディア市ヶ谷 7 階「白根」
3. 議事の経過の要領及びその結果

第 1 号議案の役付理事選任について議長より、立候補、選任について意見を求めたが、特に意見等がないため、事務局より役付理事の選任について下記の提案がなされた。議長が下記選任を議場に諮ったところ、全員意義無く可決承認された。

役	職	氏 名	事 業 協 名 等
代表理事会長		吉 澤 文 治 郎	四国地区中小乳業協同組合 理事長(新任)
理 事 副 会 長		大 野 保	兵庫県牛乳事業協同組合 理事長(再任)
理 事 副 会 長		中 田 俊 之	茨城県牛乳協同組合 理事長(再任)
理 事 副 会 長		廣 田 孝 司	石川県牛乳事業協同組合 理事長(新任)
専 務 理 事		川 崎 浩	員 外 理 事 (再 任)

「研修総懇談会」開催予定について

今年2月にアメリカとイスラエルによるイランへの軍事侵攻とイランによる報復によって原油の主要ルートであるホルムズ海峡が封鎖され原油の流通が事実上ストップされると、原油の多くを中東に依存している我が国は経済や国民の暮らしに大きな影響を受けています。

酪農乳業界においても、重油やガソリンなどの燃料に加えて、紙カートン、ポリ容器などの包装材料から作業用樹脂手袋に至るまで、事業に関連したあらゆる石油化学製品が値上げとなるばかりでなく、調達が困難になる事態が長く続いており、いまだ解決の目処が立っていない状況です。また、原油の流通が平時の状況に戻ったとしても、石油化学製品の供給不足基調の解消には長い時間がかかるものと考えられます。

今回の研修総懇談会では、関係者からの講演によって私たちを取り巻く状況、特に石油化学製品の調達にまつわる情報を共有する内容を中心にしたと思いますが、今後の経済状況により、生乳及び牛乳乳製品の需給についても必要な事と思われます。

研修総懇談会開催概要は下記の通りとなります。正式案内は9月を予定しておりますが、最終的な講演内容、講演者については今後の情勢を鑑みながら事務局にて企画いたします。

【「研修総懇談会」開催概要】

1. 開催日時：2026年10月15日（木）14時開始予定
2. 開催場所：KKRホテル東京 東京都千代田区九段北4-2-25 / TEL 03-3261-9921
3. 研修会内容：未定

「次世代セミナー」の活動と第5回「次世代セミナー」開催予告について

「次世代セミナー」の活動について

【目 的】

地域乳業が価値訴求経営を志向しつつ全国展開する大手乳業との差別化を図るため、酪農乳業を取巻く情勢認識の共有を図るとともに地域乳業が目指すべき「姿・役割」を啓発し、併せてその実現に向けた関係者間のネットワーク作りを通じその後継者育成を支援します。

本セミナーは、全国中小企業団体中央会連合会の「連合会（全国組合）等研修事業」を活用して実施する予定です。

【「次世代セミナー」の会員】

原則として55歳以下の次世代経営者及び経営幹部で、一般的に役員・部長クラスとしていますが、現経営者からの推薦を受けた者であればそれ以外の役職の方でも構いません。

現在21名が会員登録しています。会員登録をご希望の方は乳業連合事務局までご連絡下さい。

★E-mail：kawasaki@jf-milk.or.jp / TEL：03-5577-7080 川崎まで

【そ の 他】

本セミナー出席に係る交通費・宿泊費は、規定に基づき当会の負担といたしますが、別途会費は徴収いたします。

【これまでの「次世代セミナー」開催概要】

《第1回》2023年3月 東京開催／テーマ「乳業で地域コミュニティを元気にする」

《第2回》2023年9月 東京開催／テーマ「地域乳業と牛乳消費拡大の取組み」

《第3回》2024年11月 永利牛乳(株)(福岡県)／テーマ「地域酪農の現状と課題、地域乳業のSDGsの取組み」

《第4回》2025年11月東京開催／テーマ「学乳風味差異案件対応を中心とした乳業会社のリスクマネジメント」

【第5回「次世代セミナー」予告】

1. 日時・場所：2026年11月前後、東京開催を予定
2. 研修テーマ：「地域乳業が抱える課題について～最近の情勢分析～」(仮題)



(第4回「次世代セミナー」会場で熱心に講話聴講の参加者表情)

全国乳業協同組合連合会「役員名簿」

2026年5月20日改選

役 職	氏 名	道府県等、所属及び役職		
代表理事会長	吉澤 文治郎	四国地区	四国地区中小乳業協同組合	理事長（新任）
理事副会長	大 野 保	兵庫県	兵庫県牛乳事業協同組合	理 事 長
理事副会長	中 田 俊之	茨城県	茨城県牛乳協同組合	理 事 長
理事副会長	廣 田 孝司	石川県	石川県牛乳事業協同組合	理事長（新任）
専務理事	川 崎 浩	（員外）		
理 事	大 橋 俊之	北海道	北海道牛乳事業協同組合	副 理 事 長
理 事	目 時 正	岩手県	岩手県牛乳事業協同組合	理 事 長
理 事	針 谷 享	栃木県	栃木県牛乳事業協同組合	理 事 長
理 事	古 谷 真一	千葉県	千葉県乳業協同組合	専務理事（新任）
理 事	柳 川 幸司	神奈川県	神奈川県牛乳事業協同組合	理 事 長
理 事	櫻 澤 和仁	新潟県	新潟県牛乳事業協同組合	理 事 長
理 事	荻 野 誠	愛知県	愛知県牛乳事業協同組合	理 事 長
理 事	砂 内 修治	広島県	広島県乳業協同組合	理 事 長
理 事	長 谷 川 健	福岡県	福岡県乳業協同組合	理事長（新任）
理 事	古 山 信介	大分県	大分県乳業協同組合	理 事 長
監 事	池 戸 創一	岐阜県	岐阜県牛乳事業協同組合	理 事 長
監 事	依 田 悟史	群馬県	群馬県牛乳事業協同組合	理 事 長

長谷川理事は6月福岡県乳業協同組合総会にて理事長就任予定
役員17名（理事15名、監事2名）

【あ と が き】

- ◇ 5月20日開催の「第37回通常総会」において、長谷川 敏会長は退任され、後任の会長に吉澤文治郎氏が選任されました。長谷川会長は挨拶の中で、足掛け12年という永年の職責から解放されたお気持ちを披露され、その表情の清々しさに胸に迫るものがありました。心からお疲れ様でしたと申し上げさせて頂きますと共に、今後益々のご健勝でご活躍をお続けられますようお願い致します。
- ◇ 新任会長の吉澤様にあっては、普段の吉澤様のままで多事多難へのお取り組みを先導されますことを心よりお願い致し、会長ご就任へのお祝いかえさせて頂きます。
- ◇ 編集子にとりまして、乳業連合という組織団体とのお付き合いは創設時からで、また、前号でも触れさせて頂いたように、機関誌『乳業連合 News』も創刊号から編集担当者を拝命～今日に至っており、37年間という永年に亘る歳月の中に動かすことが出来ない「年輪」の重みと「責任」の大きさが負荷されていることを改めて思い巡らす今頃と申せます。
- ◇ 発行ナンバーは今回「126」、創刊当時は年6回、年5回～年4回～3回と変遷を重ね、現在の「年2回発行体制」が定着して20数年間、いずれも組織母体の活動を反映した中で独自の情報誌としての役割を果たして参りました。一方、組織の代表者としての会長も野村慶一氏を初代として、二代会長に芝田 博氏、三代会長に古谷健一氏、四代目に町田専務理事の代行就任をへて五代会長に長谷川 敏氏、そして六代会長として吉澤文治郎氏と続き、明日へ向かって飛翔していく組織団体としての確かな役割が展望され、期待も大きいものがあります。`無くってはならない組織団体とは？、への問いを正面から受け止め、その解答を広く、深く求めていく今後の活動への期待は大きく、会員企業の皆様のより一層の協力をお願いします。（達）

全国乳業協同組合連合会「2026 年度ブロック会議日程」一覧

ブロック名	開催日時	開催場所	幹事県・電話
東海・北陸	7月2日(木) 14:00～17:00	賢島「宝生苑」 TEL 0599-43-3111 志摩市阿児町神明 718-3	三重県 059-224-8466
東北	7月10日(金) 14:00～17:00	「アートホテル盛岡」2階 末廣の間 TEL019-625-2131 盛岡市大通 3丁目 3-18	岩手県 019-653-3795
近畿	7月15日(水) 13:30～16:00	「楠公会館」1階会議室 TEL078-371-0005 神戸市中央区多聞通り 3-1-1	兵庫県 078-371-6661
中国・四国	7月16日(木) 14:00～17:00	「広島ガーデンパレス」3階 鶴亀 TEL 082-262-1122 広島市東区光町 1-15-21	広島県 082-85-2470
九州	7月23日(木) 14:00～17:00	「大分センチュリーホテル」 TEL 097-536-2777 大分市府内町 1-4-28	大分県 097-586-4223
関東・甲信越	7月29日(水) 14:30～17:00	「崎陽軒本店」 TEL 045-441-8880 横浜市西区高島 2-13-12	神奈川県 045-761-0487
北海道	7月30日(木) 14:00～16:30	「ホテルポールスター札幌」3階「パストラル」 TEL 011-241-9111 札幌市中央区北 4 条西 6 丁目	北海道 011-251-2561

2026～2027 年度 会議等開催日程について

開催日	会場	乳業連合	中小乳業学乳推進協議会 (中小学乳推進協)
7月	全国7会場	ブロック会議 【事業計画・予算、意見交換、その他】	
10月15日(木)	KKR ホテル東京	第210回理事会 【事業推進状況報告、その他】 研修・総懇談会	
3月18日(木)	アルカディア市ヶ谷	第211回理事会 【事業実施状況、決算見込み、その他】	
4月	乳業連合・事務所	監事監査 【2026 年度決算監査】	監事監査
4月下旬	乳業連合・事務所 (書面開催)	第212回理事会 【総会開催、事業報告・決算、事業計画予算】	第1回理事会
5月20日(木)	KKR ホテル東京	第213回理事会 【総会提出議案、その他】 第38回通常総会 【事業報告・決算、事業計画・予算、その他】	第2回理事会 第21回総会



全国乳業協同組合連合会 『機関誌』、『乳業連合 News・No.126』

発行日 2026年7月1日
編集・発行 全国乳業協同組合連合会 川崎 浩
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-10(和田ビル4階)
☎03(5577)7080(代) FAX 03(5577)7081
ホームページ: <https://jf-milk.or.jp/>